

社会保険労務士からの三方一両得だより

平成28年8月20日 第83号

干瓢剥きをやってみました

創業 132 年の歴史を誇る上三川町の干瓢問屋「谷野善平商店」様をお願いして、干瓢剥きを体験させてもらいました。



回転の中心軸に棒を刺す



表皮を剥く



一定の幅で剥く



間隔を空けて干す



干瓢畑

ゆうがお 1 株から平均 20 個の実が採れて、1 個で約 200g の乾燥した干瓢になるそうです。

天気が悪い日にはボイラーも使って乾燥させます。

テレビでタレントさんが大騒ぎしながら干瓢剥きをやっている番組を見たことがありますが、大きさにリアクションを取っているのだらうと思っていましたが、本当にあぁなりました。

以前は栃木県内に 5,000 軒あった干瓢農家も、今では 300 軒になってしまったそうです。(国産のうち栃木県のシェアは 98%) 干瓢問屋として扱う国産干瓢が無くなってはならないと、5 年前から自社でのゆうがお栽培と干瓢生産に取り組み始められたそうです。

とても貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



左と右の差が激しすぎ！

今年はずっと桃太郎トマトを植えず、5本植えました。お陰様で順調に育ち、立派な中玉トマトを沢山収穫できました。

虫食いの終わったナスは、ほとんど成長し収穫も最盛期です。あつという間に大きくなりますので、何とかまめに畑に行きたいものです。

オクラも調子が良いのですが、大きくなる枝と、ある時からまったくと育たない枝があるのが不思議です。同じ袋の種を同時に蒔いているのですがなぜでしょう。

◆「高年齢者の労働災害」を未然防止するための対策

現在、高年齢者の労働災害防止は重要な課題となっています。

厚生労働省の「第 12 次労働災害防止計画」によると、60 歳以上の労働者の死亡災害発生率(危険度)は若者の 3.6 倍、また、50 歳以上の労働者が全死亡災害の 56%を占めています。

労働者の定年延長や退職者の再雇用が進み、企業の人手不足感から高齢者の積極的な活用というニーズが生じている中で、高年齢の就業者は今後さらに増えることが見込まれますので、対策は急務です。



高年齢者の労働災害では「墜落・転落・転倒」が多数を占めます。加齢により、平衡感覚や筋力・視力・聴力、鋭敏性が低下することがその要因の 1 つです。財団法人労働科学研究所によると、55 歳～59 歳の身体機能は 20 歳～24 歳と比較すると、平衡機能は

48%、薄明順応は 36%、視力は 63%、瞬発反応は 71%と大きく低下しますが、高年齢労働者自身は自分の身体機能の低下を軽く見る傾向にあり、注意を促してもあまり危機意識を持たないといふことが多いようです。当然、ベテランであることの誇りが悪い方向で現れていることもあるでしょう。また、高年齢者の場合、傷害が重篤化して休業も長期化する傾向にあります。復帰しても、予後が思わしくないことも少なくありません。

このような高年齢者の労働災害を未然に防止するためには、特に「加齢」を意識した対策を講じることが求められます。

例えば、身体機能の低下に配慮して作業負荷を軽減するような作業方法を定め、その方法が適切に実施されるように管理する、労働者個人の健康の状態をチェックして異常を早期に発見するためのシステム作りを行い、健康を管理する、といった対策が考えられるのではないのでしょうか。暑さを感じにくくなり、熱中症にかかりやすいという傾向もあります。

今回のこのデータを見るまで、このようなリスクが存在していることに私も気づいていませんでした。どうぞご注意ください。